

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-------------|-----|-----------|
| En12033B ① | 英語コミュニケーション | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>今日では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。</p> <p>≪学習成果≫</p> <p>レポート：比較的平易な英語で書かれた物語および子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p> <p>科目試験：英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることができるとともに、子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>本テキストは3つのChapterからなっている。Chapter1は基礎的な項目が中心で、基礎が理解できていない人はまずChapter1を丁寧に学習して、英語の基礎を理解するよう努力する。英語の基礎に自信がある人はChapter1にはあまり時間をかけずにChapter2に進み、英語の理解を深める。Chapter3では、保育の現場でのさまざまな生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 西村 豊：高等学校38年 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | |
| Chapter1 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の文法（動詞、形容詞・副詞） 2. 英語の文法（比較、代名詞、疑問詞） 3. 英語の文法（進行形、完了形、受動態） | | | |
| Chapter2 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 4. 英語の基礎構文（5文型） 5. 英語の基礎構文（修飾語句） 6. 英語の基礎構文（接続詞、仮定法） | | | |
| Chapter3 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 7. 入園準備 8. 登園・降園 9. 室内遊び 10. 外遊び 11. 健康・病気・けが 12. 運動・お散歩 13. 食事 14. 工作・お絵かき 15. おたより・行事 | | | |
| テキスト | | | |
| 「英語コミュニケーション」（配本テキスト） | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 「新・保育の英語」森田和子著（三修社）（ISBN：9784384333992） | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----------|------|-----------|
| He11141B② | 健 康 科 学 | 1 単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>健康は基本的には自分で管理・守るべきものである。近年、健康に関する情報が多く、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。健康の3要素とストレス対処法について学び、現在の自分の生活を見直すことが重要である。</p> <p>本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになることを目的とする。</p> | | | |
| ≪学習成果≫ | | | |
| <p>レポート：「現代社会の健康観」とはどのようなものか、また健康を維持増進していくためには、運動、栄養、休養の3要素を日常生活にどのように取り入れていけばよいかを説明できるようになる。</p> <p>科目試験：運動の基礎理論および体力を知ることにより、自ら健康な生活を送ることができるようになる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| 健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。 | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える 2. 運動の基礎理論 利便化された現代人の運動不足と健康管理について学ぶ 3. 運動生理学 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める 4. 救命救急 救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方を学ぶ 5. 運動処方① 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ 6. 運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ 7. 健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る 8. 生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ | | | |
| テキスト | | | |
| 「健康科学」（配本テキスト） | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 特になし | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | | |

| ナンバリング | 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|----------|-----|--------|
| Ph11151A ① | スポーツ(実技) | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、自ら実践できる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する知識や技能を身に付け、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむとともに、将来の指導者として作戦の立て方や審判の仕方、競技の運営方法について学ぶ機会とする。各種のスポーツを仲間とともに楽しみ、技能面の上達及び自己の体力・健康の保持・増進を図る。また、ニュースポーツも体験・理解するなど、生涯にわたってスポーツに親しむ能力を育成する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・ニュースポーツなどを仲間とともに楽しみ、ルールを理解し、技能の上達を図る。また、審判や試合運営についても学ぶ。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。また、指導者としての視点で、運動やスポーツの指導法や競技運営について学ぶ。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の見通し・個人目標の設定等） 2. バレーボール①基本練習 3. バレーボール②応用練習 4. バレーボール③ゲーム・審判 5. 体づくり運動、エアロビクス運動、創作ダンス 6. バドミントン①基本練習・シングルのゲーム 7. バドミントン②ダブルスのゲーム 8. ドッジボール（運営方法及びゲーム） 9. バスケットボール①基本練習・応用練習 10. バスケットボール②ゲーム・審判 11. 卓球①基本練習 12. 卓球②シングルのゲーム 13. 卓球③ダブルスのゲーム 14. ニュースポーツ学ぶ（ティーボールなど） 15. ウォーキングとその効果について 授業の振り返り、今後に向けて | | | |
| <p>※施設・用具の都合で実施できない場合は、他の種目に替える場合もあります。その際、個人的・集団的スポーツをバランスよく取り扱う。</p> | | | |
| 時間外学習の時間の目安と内容 | | | |
| <p>【事前学習】 時間の目安：自己の能力に応じ日頃から体力づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に応じて、ウォーキング、ジョギング、軽スポーツなど行い、体づくりを行っておく。 ・自己の得意なスポーツを見る、する、ささえるなどの知識と技術を学習しておく。 <p>【事後学習】 時間の目安：自己の能力に応じ日頃から体力づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたってスポーツに親しみ、自ら積極的に取り組む態度を養い、実践する。 ・スポーツを見る、する、ささえるなど、スポーツを通じて豊かな生活を実現する。 | | | |
| テキスト | | | |
| 「健康科学」（配本テキスト） | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 特になし | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | | |

| ナンバリング | 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|---|---|---------------|---|
| In11161A ① | 情報リテラシーと処理技術 | 2単位 | レポート・科目試験・スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：情報セキュリティについて理解し、適切な管理ができるようになる。</p> <p>科目試験：「コンピュータの機能」「インターネット」「情報モラル」「情報セキュリティ」の概要について理解した上で、それらの知識を活用できるようにする。</p> <p>スクーリング：ワープロ・表計算ソフトの基本操作／情報モラル・情報セキュリティの概要を理解する。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業 | | | |
| 【通信授業】 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会 2. コンピュータの発展 3. ハードウェア 4. ソフトウェア 5. 情報ネットワーク 6. インターネット 7. 情報システムの課題 | 【面接授業】 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows の基本操作 2. 文書作成の基本①（基本操作・書式設定） 3. 文書作成の基本②（図形・表・ページ設定） 4. 表計算の基本①（基本操作・書式設定） 5. 表計算の基本②（計算式・関数・グラフ機能） 6. 情報モラル・情報セキュリティ 7. 教育現場における ICT の活用と展望について 8. まとめ |
| 時間外学習の時間の目安と内容 | | | |
| <p>【事前学習】 時間の目安：1時間程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Windows システムツールの「エクスプローラー」の操作について習熟する。 ・Word、Excel、PowerPoint のメニュー操作について習熟する。 <p>【事後学習】 時間の目安：1時間程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、情報モラル・セキュリティに意識を向け、積極的に ICT 機器を活用し、Word や Excel などの操作方法を定着させる。 | | | |
| テキスト | | | |
| 「情報リテラシーと処理技術」（配本テキスト） | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| <p>「情報セキュリティ10大脅威2023」（独立行政法人情報処理推進機構 2023.10.31現在） https://www.ipa.go.jp/security/10threats/ps6vr70000009r2f-att/kaisetsu_2023.pdf</p> <p>「情報セキュリティ10大脅威 知っておきたい用語や仕組み」（独立行政法人情報処理推進機構 2023.10.31現在） https://www.ipa.go.jp/files/000089490.pdf</p> <p>「標準教科書改訂新版よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄監修（技術評論社）（ISBN：9784774191423）</p> <p>「キーワードで学ぶ最新情報トピックス2023」（日経 B P）（ISBN：978-4296070565）</p> | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>【通信授業】 学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>【面接授業】 科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う</p> | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----------|-----|-----------|
| Co11061A ② | 憲 法 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>近代以降の法と政治に関わる普遍的な考え方であり、現代国家の憲法の多くが国民主権とともに基本原理としている「立憲主義」ないし「近代立憲主義」について、その明確な表現が、フランス人権宣言（1789年）16条（「権利の保障」が確保されず、「権力の分立」が定められていない社会は、すべて憲法をもつものではない）に示されています。「立憲主義」に基づく憲法の最も重要な目的は、「国家権力を制限して国民の権利・自由を守る」ということにあります。</p> <p>この「立憲主義」が、(1)日本国憲法にどのように採用され、具体化されているか、(2)日本国憲法における「立憲主義」の採用や具体化には、どのような特徴があるか、というのが、授業の基本的なテーマになります。</p> | | | |
| 《学習成果》 | | | |
| <p>上記のテーマに関する学習の結果、(1)日本国憲法が採用・具体化している「立憲主義」の基本原則と仕組みについて、(2)「立憲主義」の採用・具体化が不十分であった明治憲法への反省から導入された規定・制度、すなわち、日本国憲法に特徴的な規定・制度について、理解することができるようになります。(3)さらに、議会や国民の多数派による少数派への迫害などが問題になっている現代において、立憲主義の課題は、専制政治を防ぎ、個人の権利を確保する「立憲民主主義」の実現にあることを理解することができるようになります。</p> <p>受講生の日本国憲法への理解は、自学自習に加えて、レポートの作成、科目試験受験対策学習などが加わることによって、より深まることになります。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>授業では、(1)日本国憲法が採用している「立憲主義」の基本原則とそれを具体化するための仕組みすなわち、憲法の最高法規性、個人の尊重を基本理念として基本的人権を保障し国家権力を制限する仕組み、国民主権、権力分立および法の支配の原則による正当な国家統治の仕組み、憲法の保障権限・最終的な有権的解釈権限を裁判所に与える違憲審査制（立憲主義憲法をもつ大多数の国が採用している制度）などについて学習します。さらに、(2)日本国憲法において、「立憲主義」の基本原則の採用や具体化に加えて、明治憲法体制への反省から導入された特徴的な憲法規定・制度、すなわち、象徴天皇制、平和主義を具体化した「戦争の放棄」・戦力の不保持、家庭生活における両性の平等と個人の尊厳、現代の社会国家原理に立った人権（社会権）の保障、刑事手続きの手厚い保障、国会の地位の「国権の最高機関」化、違憲審査制の導入、地方自治の保障などについても学習します。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> ＜憲法とは何か＞ 憲法の意味、憲法の分類、立憲主義、近代憲法、現代憲法など ＜(1)日本憲法の歴史、(2)日本国憲法の構造と基本原則＞ (1)明治憲法の性格、日本国憲法の制定、日本国憲法制定の法理、(2)前文の意味・構成、本文の構成、日本国憲法の基本原則：①国民主権、②基本的人権の尊重、③平和主義など ＜(1)象徴天皇制、(2)平和主義＞ (1)天皇の地位、皇位の継承、天皇の権能、(2)日本国憲法の平和主義、戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認など ＜(1)基本的人権の原理、(2)基本的人権の享有主体と限界＞ (1)人権宣言の歴史、人権の観念、人権尊重の原理、新しい人権、(2)人権の享有主体：国民、未成年者、天皇・皇族、外国人などが享有する人権、人権と「公共の福祉」、私人間における人権の保障など ＜生命・自由・幸福追求権＞ 個人の尊重と幸福追求権、幸福追求権の内容、幸福追求権の射程など ＜法の下での平等＞ 平等の意味、日本国憲法における平等原則、不合理な差別の禁止（平等原則違反の具体的事例）など ＜(1)思想・良心の自由、(2)信教の自由＞ (1)思想・良心の自由の意味、思想・良心の自由の保障態様、(2)信教の自由の内容、国家と宗教の分離（政教分離）の原則（政教分離の限界、政教分離に関する判例）など | | | |

8. <(1)学問の自由、(2)表現の自由>

(1)学問の自由の内容、大学の自治、(2)表現の自由の規制、表現の自由の形態：①報道・取材の自由、②性的表現の自由、③名誉棄損表現、④知る権利・アクセス権など、集会・結社の自由と限界、通信の秘密の内容と限界など

9. <身体的自由権（人身の自由）>

奴隷的拘束・苦役からの自由、適正手続の保障、被疑者の権利、刑事被告人の権利、拷問および残虐刑の禁止など

10. <経済的自由権>

職業選択の自由、居住・移転の自由、外国移住・国籍離脱の自由、財産権など

11. <社会権>

憲法25条、生存権の法的性格、生存権の内容、環境権の根拠、教育を受ける権利の意義（「子どもの学習権」説、教育権の所在）、教育を受ける権利の法的性格・内容、労働権の内容、労働基準の法定、児童酷使の禁止、労働基本権の内容と限界など

12. <(1)国務請求権、(2)参政権、(3)国民の義務>

(1)請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、(2)公務員の選定・罷免権、(3)教育を受けさせる義務、勤労の義務、納税の義務など

13. <(1)立憲民主制の原理と制度、(2)国会と立法権>

(1)日本国憲法における権力分立、国民主権と代表民主制、選挙権の意味と法的性格、日本国憲法と政党、(2)国会と立法権、国会の地位と性格、二院制、国会の権能、議院の権能など

14. <(1)内閣と行政権、(2)裁判所と司法権>

(1)内閣の地位と性格、議院内閣制、内閣の権能、内閣の責任、(2)司法権の概念・範囲、裁判所の構成と権能、司法権の独立、違憲審査制など

15. <(1)財政、(2)地方自治、(3)憲法改正>

(1)財政民主主義、租税法律主義、予算と決算、(2)地方自治の本旨、地方公共団体の権能、住民自治、(3)憲法改正の手続、日本国憲法改正の限界など

テキスト

「憲法」（配本テキスト）

参考書・参考資料等

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第8版）』岩波書店（2023年）ISBN：4-00-061607-2

野畑健太郎・東裕編『憲法学事始〔第二版〕』一学舎（2018年）ISBN：978-4904027172

『ポケット六法』有斐閣（2023年）ISBN：978-4641009240

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

| ナンバリング | 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|---|-------|-----|-----------|
| Pr32010A ③ | 教育原理 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。</p> <p>《学習成果》 教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全について理解できる。 レポート：レポート作成を通じて教育原理に関する知識を習得・整理するとともに自身の意見を考えることができる。 科目試験：教育原理に関する体系的な知識を習得しており、それに対する自身の意見を持ち、文章で表現することができる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が生まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性 2. 世界の教育思想①ソクラテス〜ルソーの思想・実践 3. 世界の教育思想②ヘルバルト〜デューイの思想・実践 4. 日本の教育思想 5. 子どもの発達と教育 6. 子どもの権利 7. 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園 8. 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園 9. 世界における教育の歴史の変遷 10. 日本における教育の歴史の変遷 11. 公教育制度、義務教育制度 12. 教師という仕事、教授法 13. 教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化 14. 教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング 15. 教育における今日的課題③学校外との連携 | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「教育原理」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 特になし | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる） 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----------|-----|------------------|
| Ed34311B ④ | 教 育 心 理 学 | 2単位 | レポート・科目試験・スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>教育心理学は、教育と乳幼児期から青年期を中心とした人の発達について心理学的に理解していく学問である。本講義では、発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える学習の仕組みと動機づけ、指導方法と実践活動について学びを進めていく。また子どもを取り囲む環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。</p> | | | |
| 〈学習成果〉 | | | |
| <p>レポ ー ト：教育心理学における動機づけのしくみを理解し、教育・保育場面での活用方法を自分の考えで説明することができる。</p> <p>科 目 試 験：教育心理学における基礎的知識を理解し、教育・保育場面での活用方法を概説することができる。</p> <p>スクーリング：教育・保育場面の様々な事象を心理学的に理解し、教育・保育実践に応用することができる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、乳児期から青年期までの発達の特徴について、「学習」では、学習・動機づけの理論、実際の教育・保育現場での指導・評価方法について解説する。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業 | | | |
| 【通信授業】 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学を学ぶ意義（教育心理学とは） <ol style="list-style-type: none"> ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定 ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義 2. 発達の考え方とその理解（子どもの発達） <ol style="list-style-type: none"> ①生涯発達心理学の概念 ②各段階における発達の特徴（運動、言語、認知、社会発達） 3. 学習の仕組み（子どもの学び） <ol style="list-style-type: none"> ①連合説と認知説 ②様々な学習理論の応用 4. 主体的な学習を支える「やる気」（動機づけ） <ol style="list-style-type: none"> ①内発的動機付けと外発的動機付け ②学習性無力感と自己効力感 5. 集団での学習とその評価（どのように教えるか／評価する—教育評価） <ol style="list-style-type: none"> ①学習指導の形態 ②評価の仕方とその意義 6. 動機付けからみる発見学習の仕組み（どのように教えるか） <ol style="list-style-type: none"> ①発見学習の手続き ②発見学習により動機付けが高まる理由 7. 教育心理学に基づく保育実践 | | | |
| 【面接授業】 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達課題に応じたかかわり <ol style="list-style-type: none"> ①各段階の発達の特徴 ②エリクソンの発達課題 2. 子どもから大人への思考様式の変化 <ol style="list-style-type: none"> ①ピアジェの認知発達理論 ②思考発達段階ごとの特徴 3. 学びを支える記憶 <ol style="list-style-type: none"> ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ②記憶の忘却 4. 子どもの学びの姿 <ol style="list-style-type: none"> ①日常生活からみる学習理論 ②オペラント条件付けを利用した保育実践 5. 子どものやる気を引き出す指導の在り方 <ol style="list-style-type: none"> ①指導者の態度（ピグマリオン効果） ②様々な学習形態とその効果 6. 子どもの遊びの重要性 <ol style="list-style-type: none"> ①遊びの変化 ②遊びを通した社会性の発達 7. 子どもと道徳 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児期に迎える第一次反抗期と自立 ②道徳の指導方法 8. 教育心理学を用いた環境づくり | | | |

時間外学習の内容と時間の目安

【事前学習】時間の目安：1時間程度

配本テキストの該当ページを読み、用語の意味を理解しておくこと。

【事後学習】時間の目安：1時間程度

講義内容について、配布プリント・配本テキストを参照しながら復習すること。

テキスト

「教育心理学」(配本テキスト)

「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレール館)

「保育所保育指針解説」(最新版)(フレール館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレール館)

参考書・参考資料等

「キーワード教育心理学」永江誠司編 北大路書房 2013年 (ISBN：9784762827938)

「改訂版 楽しく学べる最新教育心理学」桜井茂男編 図書文化社 2017年 (ISBN：9784810076905)

「教育心理学」西口利文・高村和代編 ナカニシヤ出版 2010年 (ISBN：9784779504778)

その他 教育心理学関連図書

学生に対する評価

【通信授業】学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する

(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する

(評価はルーブリック評価を用いる)

【面接授業】科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する

(評価はルーブリック評価を用いる)

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----------|------|-----------|
| Ex31560C ⑤ | 表現とこどもの運動 | 1 単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>こども達が自分の思いや考えを豊かな表現を通して他者に伝えることができるためには、多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解する。その中で年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども達がどう表現し遊びを工夫し、仲間と話し合うかなどよりよく関わっていくことができるかを発達段階に沿って展開させることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全の確保についても認識を深める。</p> | | | |
| ≪学習成果≫ | | | |
| <p>レポート：表現運動における「表現と感性の関連」及び、表現運動に関係する「運動と人格的な発達」について理解説明ができる。また、保育の実践における「人的環境を整える援助の工夫」について大切と思う内容について理解し、実践事例をあげて自分の考えを述べることができる。</p> <p>科目試験：表現活動は、こどもを取り巻く生活環境が大きく関係し、遊びの中で豊かな感性に深く関係していることを理解するとともに、表現遊びや表現運動がそれぞれ相互に関わり成り立っていることを理解する。また、こども同士での運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達状況に応じた援助の在り方を理解し各種の問題に取り組むことができるようにする。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安心安全に楽しく表現遊びが展開できる援助の在り方について知識及び実践力を深める。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 表現の理解と関連性 <ul style="list-style-type: none"> ・「表現」の理解 ・「感性」の理解 2. こどもの発達と運動について <ul style="list-style-type: none"> ・身体・形態・機能・こころの発達発達 ・こどもと運動「運動と人格的な発達」 3. 運動遊びの基本的な動き <ul style="list-style-type: none"> ・基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登） ・運動表現の要素における調整力と運動技能との関連 4. 身体コントロール能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・調整力中心の体づくり運動 ・音・色などの刺激に対応する運動 5. 身体表現運動の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・身体表現運動のねらい ・実施についての留意点 6. 表現とこどもの運動における保育者の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな動きを体験させる保育者の役割 ・人的環境としての援助の工夫 ・表現運動における集団遊びと発達発達の関係 7. 発達段階と表現運動の実践（表現運動遊びの実践） <ol style="list-style-type: none"> ①年齢別発達における表現遊び（表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等） ②手遊びリズム表現（糸まき、アルプス一万尺、げんこつ山の狸さん、むすんでひらいて、アイアイ等） 8. 表現運動（運動遊び）における安全指導 <ol style="list-style-type: none"> ①安全管理について（安全の考え方、物的管理、人的管理、用具管理等） | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「表現とこどもの運動」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いて行う)

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|---------------|-----|---------|
| In32052B ③ | こどもの指導法「人間関係」 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。</p> | | | |
| ≪学習成果≫ | | | |
| <p>スクーリング：1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できる。</p> <p>2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。</p> <p>3. 養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。</p> <p>また、保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係性について考察していく。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「人間関係」 <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいと内容及びその取扱い ・保育者としての役割 2. 保育者としての環境作りと評価 <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定 ・保育構想と指導案（模擬保育） 3. こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助① <ul style="list-style-type: none"> ・対人意識、自己概念の発達 ・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫 4. こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助② <ul style="list-style-type: none"> ・個と集団の育ちの姿 ・こどもの心の拠り所である保育者の工夫 5. こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助③ <ul style="list-style-type: none"> ・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 ・集団におけるこども同士の関わり芽生え、調和を支える保育者の工夫 6. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点 7. こどもの人間関係の育ちと保育者の役割と援助⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・こども同士を結び付ける遊びと保育者の役割 ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育） 8. 地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育） | | | |

時間外学習の時間の目安と内容

【事前学習】 時間の目安：5時間程度

幼児教育の基本と領域「人間関係」に示される「ねらい」「内容」および「内容の取り扱い」を理解するよう、事前に幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説に目を通しておく。

【事後学習】 時間の目安：3時間程度

遊びや地域の人的環境を通して、子どもの人と関わる力の成長・発達を援助していくための保育者のあり方について実践の中で考察してゆく。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）

「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

時間外学習の時間の目安と内容

【事前学習】時間の目安：1時間程度

テキストの領域「言葉」を下読みしておく。

わらべうた・かるたなど言葉の育みに役立つ児童文化財について調べておく。

【事後学習】時間の目安：1時間程度

授業で学んだこと、実践したことを踏まえ、テキストの領域「言葉」を再度読み込みさらに深く理解する。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

参考書・参考資料等

「保育内容 言葉」第3版（シートブック）榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社（ISBN：9784767950686）

「保育内容『言葉』最新保育講座10 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美 ミネルヴァ書房（ISBN：9784623056415）

「子どもの遊びの世界を知り、学び、考える！」小田豊 ひかりのくに（ISBN：9784564607875）

「子どもの心をつかむ保育者」小田豊 ひかりのくに（ISBN：9784564-600937）

「かかわりあって育つ子どもたち—2歳から5歳の発達と保育—」西川由紀子 かもがわ出版（ISBN：9784780306330）

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-------------|------|---------|
| In32073B ⑤ | こどもの指導法「言葉」 | 1 単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話聞く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。 3. 言葉遊び（わたべうた・なぞなぞ・しりとり等）、文字体験（カルタ・標識・ごっこ遊び）等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイメージーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。 5. 言葉に問題があり、遅れがある幼児、また外国籍の幼児等について個々に応じた配慮、支援を認識し理解することを目的とする。 | | | |
| 《学習成果》 | | | |
| <p>スクーリング：1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、コミュニケーションを図ることができるようになる。</p> <p>2. こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようになる。</p> <p>3. 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。</p> <p>4. こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。</p> <p>5. 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解できるようになる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育と言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉とは何か・生活と言葉（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 <ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 3. 言葉を豊かに育む活動（1） <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育 4. 言葉を豊かに育む活動（2） <ul style="list-style-type: none"> ・言葉から文字へ、文字による環境 ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作（情報機器活用及び教材の活用）及び模擬保育体験 5. 保育者と言葉のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 ・外国のこどもとの対応 6. 言葉を豊かに育む活動（3） <ul style="list-style-type: none"> ・言語教材としての絵本の意義 ・デジタル教材の利用と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成 7. 言葉を豊かに育む活動（4） <ul style="list-style-type: none"> ・絵カード・カルタ等を利用した指導法と情報機器の利用について ・お話等の実践による指導案作成及び模擬保育 8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携 | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-----------|-----|-----------|
| Te34110A ③ | 教 育 方 法 論 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。</p> | | | |
| ＜学習成果＞ | | | |
| <p>レポート：教育方法の歴史の変遷について理解できる。 幼児教育（保育）の方法について理解できる。 科目試験：幼児教育について、幼児教育と小学校の連携について理解できる。 近代以降の教育方法、評価について理解できる。 教育メディア、特に ICT 機器の活用について理解できる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>教育方法とは何か。その定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史の変遷を概観することをとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察する。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討する。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の定義・意義と守備範囲 2. 教育方法の歴史的展開 1（西欧の教育方法） 3. 教育方法の歴史的展開 2（近・現代の教育方法） 4. 教育方法の歴史的展開 3（日本の教育方法） 5. 教育技術の革新と情報機器の活用 6. 教材・教具の理解と活用 7. 特色ある授業実践 8. 教育現場における授業技術 9. 授業分析と授業評価 10. 授業展開の構想 11. 幼児の理解と幼児教育（保育）の方法（生徒指導との関係も踏まえて） 12. 近代以降の幼児教育（保育）方法 13. 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 14. 幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容 15. 教育方法の課題と展望 | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「教育方法論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| <p>「小学校学習指導要領（解説書含む）」 「幼児学用語集」 小田豊等監修 北大路書房 2013年（ISBN：9784762828119）</p> | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いて行う） 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いて行う）</p> | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|----------------|-----|---------|
| In32083A ⑤ | こどもの指導法「リズム表現」 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。</p> <p>表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。</p> | | | |
| ≪学習成果≫ | | | |
| <p>スクーリング：保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域、造形表現的領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も合わせて習得する。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 領域「表現」についての基本的な考え方 <ol style="list-style-type: none"> ①古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察 ②幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりについての理解 基礎リズム <ol style="list-style-type: none"> ①歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点 ②幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解 基本動作 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践 ②日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践 タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 <ol style="list-style-type: none"> ①童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振付の実践 ②幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 <ol style="list-style-type: none"> ①楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用 ②指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成 領域「表現」と小学校教科等のつながり <ol style="list-style-type: none"> ①オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について ②領域「表現」と小学校教科等とのつながり 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り <ol style="list-style-type: none"> ①絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 ②保育構想発展のための相互発表による振り返り リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り <ol style="list-style-type: none"> ①幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作 ②創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践 ③保育構想発展のための相互発表による振り返り | | | |

時間外学習の時間の目安と内容

【事前学習】時間の目安：1時間程度

乳幼児の年齢に応じた身体的・言語的・心理的発達の違いを、調べておきましょう。

保育所保育指針の乳児保育の項に記述されている3つの視点を、熟読しておいてください。

【事後学習】時間の目安：1時間程度

スクーリングを通して学んだ保育における、音楽の実技・技能を実践に役立てられるように復習し、まとめておきましょう。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

参考書・参考資料等

「1～5歳のかんたんリトミック」神原雅之著（ナツメ社）（ISBN：9784816354083）

「リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選」

神原雅之編、井上恵理・菅沼邦子・小見英晴・有谷英彰著（明治図書）（ISBN：9784187700168）

「乳幼児のダンスABC」猪崎弥生・山田悠莉著（一二三書房）（ISBN：9784891991524）

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|---------------|-----|---------|
| In32102C ⑤ | こどもの指導法「造形表現」 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う造形教材に必要な知識、さらに製作を通して教材研究と材料・用具の取り扱いや子どもの指導と援助について学習する。</p> | | | |
| 《学習成果》 | | | |
| <p>スクーリング：1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた造形活動について理解できる。 2. 幼児の造形活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 製作を通して幼児の造形活動の展開と援助のあり方、環境構成を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材について指導と援助のあり方や環境構成について、材料・用具・技法をもとに知識と製作体験とを関連づけながら学習を行う。さらに、幼児の造形活動の大切さを、造形的な表現の発達過程とその特徴を理解する中で学習を深める。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域及び小学校「図画工作」の学習指導要領との関連と連携 2. 幼児の造形表現の意義とその内容、子どもの発達段階における表現の特徴、造形活動の環境づくり 3. こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価 4. えがく領域における製作を通して、教材研究と子どもの指導と援助について 5. つくる領域における製作を通して、教材研究と子どもの指導と援助について 6. 造形あそび領域における製作を通して、教材研究と子どもの指導と援助について 7. えがく領域、つくる領域、造形あそび領域の実践的な指導法や模擬保育等の学習 8. 情報機器を使った造形活動及び教材の活用 まとめ | | | |
| 時間外学習の時間の目安と内容 | | | |
| <p>【事前学習】 時間の目安：2時間程度 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の造形表現領域についてとテキスト「造形表現論」をよく読んでおく。 また、絵の具やクレヨンなどの造形教材を使って簡単な作品をつくってみる。</p> <p>【事後学習】 時間の目安：2時間程度 テキストやプリントで授業の内容を再度確認、整理しまとめる。また、授業で行った製作について、実習や保育の実践の場で活かすことができるよう教材研究を深め、再度、作品を作ってみる。</p> | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「造形表現論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| <p>市販の造形表現に関する書籍等</p> | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|---------------|-----|---------|
| In32120B ⑤ | こどもの指導法「音楽表現」 | 2単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>感性と表現に関する領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、ねらい及び内容等について理解を深め、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を修得する。</p> | | | |
| 《学習成果》 | | | |
| <p>スクーリング：1. 感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解する。 2. 音楽表現活動に必要な知識や技能を修得し、理解を深める。 3. 模擬保育を行い、実践力を高める。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>感性と表現に関する領域「表現」は、幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容等を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 感性と表現に関する領域「表現」の「ねらい」及び「内容」などの理解 表現活動を支える伴奏についての基礎知識の習得と実践 2. 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解 表現活動における伴奏の方法と実践 3. 映像視聴などによる身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法 サウンドスケープなどの実践と楽器による表現及び伴奏法 4. 声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法 5. 映像を活用した0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 6. 映像を活用した3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法 7. 「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践 「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法 8. 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践 9. 「音あそび」「楽器遊び」などによる表現活動の理解と実践 乳幼児の「楽器あそび」や器楽合奏などに親しむための指導法 10. 指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践 11. 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践 12. 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議 模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践 13. 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践 14. ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践 15. 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ | | | |

時間外学習の時間の目安と内容

【事前学習】 時間の目安：1. 90分から120分の学習時間 2. 継続して30分以上の練習時間

1. 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育指針解説」に記載されている『感性と表現に関する領域「表現』』を熟読しておくこと。
2. ピアノ実技・ソルフェージュは毎日短時間でも継続して取り組むことが上達への近道である。

【事後学習】 時間の目安：90分から120分の学習時間

スクーリングへの参加により、音や音楽を保育の場において実践的に用いる具体的な知識や技能を修得することができた。総合的な音楽表現の知識を用いて具体的な指導案を作成するなど、復習しながら実習や保育実践に応用できるように準備をしよう。

テキスト

「こどもの指導法『音楽表現』」（配本テキスト）

「音楽表現論」（配本テキスト）

「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）

「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）

参考書・参考資料等

領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現 ～のびのびと心と身体を育む～ 柳澤邦子著 フレール館
(ISBN：9784577813706)

新版 実践 保育内容シリーズ⑤ 音楽表現 三森桂子／小島エマ編著 一藝社 (ISBN：9784863591608)

改訂幼児のための音楽教育 神原雅之／鈴木恵津子編著 教育芸術社 (ISBN：9784877884437)

新版和音伴奏による幼児のうた100曲 在原章子／菊本哲也／柳田憲一／山内悠子共著 全音楽譜出版社 (ISBN：9784116200561)

子どものうた村保育の木 小川宜子／妹尾美智子／麓陽介共編 株式会社ドレミ楽譜出版社 (ISBN：978428512622)

やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月 河本芳子／小泉八重子 新星出版社 (ISBN：9784405071391)

わらべうたあそび 木村はるみ著 成美堂出版 (ISBN：9784415305646)

保育で使える 合奏楽譜ベストセレクション 佐藤千賀子編著 ひかりのくに株式会社 (ISBN：9784564609176)

これで安心！保育指導案の書き方 開仁志編著 北大路書房 (ISBN：9784762826214)

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や実技技能評価及び単位認定試験結果を総合的に評価する。
(評価はルーブリック評価を用いて行う)

| ナンバリング | 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|-------|-----|-----------|
| Mu31570A ⑤ | 音楽表現論 | 1単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>感性と表現に関する領域「表現」を通して、こどもが様々な感覚を駆使して表現することの「表現」を理解する。こどもの発達と音楽表現の関係、こどもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びやその環境構成などを理解する。また、音楽表現指導に関する専門的知識を身につけ、保育の具体的な指導や援助の計画が立てられるようになる。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート及び科目試験：感性と表現に関する領域「表現」を理解し、音楽表現指導に関する専門的知識・具体的な指導の方法を身に付ける。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>領域「表現」における音楽表現に視点を置き、こどもが遊びや生活の中で、こどもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての豊かな感性を養う。また、こどもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもが表現する力や想像力を育むための知識と具体的な指導法を身に付ける。さらに家庭との連携のあり方とその具体的な方法、小学校教育への学びの連続性を理解する。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 感性と表現の領域「表現」の理解 感性と表現の領域「表現」の基礎知識 2. こどもを取り巻く音に対する感性と表現 自然の音や生活の音への気づきと感性を育む保育 3. 日本のこどもの歌の理解 童謡・わらべうた・あそびうた 4. 感性と表現の領域「表現」と他の領域との関連 領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」と関連した音楽表現 5. こどもの音楽表現を育む保育の実践 幼児用楽器や手作り楽器を用いた音楽表現活動 6. 音楽を用いたこどもの表現活動の指導1 うたう活動・楽器あそびなど表現活動における指導案の作成 7. 音楽を用いたこどもの表現活動の指導2 うたう活動・楽器あそびなどの模擬保育の実際 8. 保育の可視化による家庭との連携、小学校教育への連続性 ポートフォリオなどを用いた保育の可視化、ICTの活用 | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「音楽表現論」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| <p>領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現 ～のびのびと心と身体を育む～ 柳澤邦子著 フレーベル館 (ISBN: 9784577813706)</p> <p>育ちと学びをつなぐ「幼保小連携教育」の挑戦 実践接続期カリキュラム 木村吉彦監修 ぎょうせい (ISBN: 9784324100844)</p> <p>こどものうた「簡易伴奏曲付」 田中常雄監修 平島美保、木村鈴代、小杉裕子編著(圭文社)(ISBN: 9784874460764)</p> <p>保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集 津布楽杏里、桑原章寧著(DOREMI)(ISBN: 9784285140439)</p> <p>手あそび百科 植田光子編著(ひかりのくに株式会社)(ISBN: 9784564603839)</p> <p>表現原論 大場牧夫著 萌文書院 (ISBN: 9784893470485)</p> <p>保育内容「表現」論 名須川知子、高橋敏之著 ミネルヴァ書房 (ISBN: 9784623047178)</p> | | | |

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----------|------|-----------|
| Fo31550A ⑤ | 造 形 表 現 論 | 1 単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。</p> <p>〈学習成果〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。 3. 乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。 <p>レポート：乳幼児における造形教育の指導・援助者として必要となる基礎的知識及び技能についてテーマ毎に課題を設定し、形や色や質感等について理解するとともに、保育の教材となる材料や用具の取り扱いについて学習する。</p> <p>科目試験：保育の内容を踏まえた造形教育における基礎的知識と、造形活動の際に取り扱う保育教材や用具の使用方法について確認する。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現のねらい 2. こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの特徴と理解 3. こどもの発達段階の基本的な考え方に基づく、えがく、つくる、造形あそびの指導、援助、評価 4. えがく活動における形態・色彩の理論、絵画技法、製作、材料・用具を踏まえた指導援助、評価 5. つくる活動における技法と活用、素材（廃材）、製作、材料・用具を踏まえた指導援助、評価 6. 造形あそびにおける各種表現技法、製作、材料・用具を踏まえた指導援助、評価 7. 実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用 8. 美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の意義と課題と展望、全体のまとめ | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「造形表現論」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| <p>「子どもの絵は何を語るか」東山明・東山直美共著（日本放送出版協会）（ISBN：9784140018637）</p> | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （レポート評価はルーブリック評価を用いて行う）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （科目試験評価はルーブリック評価を用いて行う）</p> | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|-------------|-----|-----------|
| Un34291D ④ | こどもの理解と相談支援 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指します。この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学びます。</p> | | | |
| 《学習成果》 | | | |
| <p>レポート：現代の子どもが置かれる環境とその影響、カウンセリングの基本について理解できるようになる。 科目試験：子どもの発達、カウンセリングの技法、職場での情報共有、保護者支援について理解できるようになる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの実態に応じた発達や学びの把握（こどもの理解の意義、養護保育の一体的展開、幼児理解を深める教師の基礎的な態度） 2. 相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本（意義・理論）とカウンセリングの基本的な方法（受容的態度と共感、傾聴） 3. こどもを理解する視点①（こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験） 4. こどもを理解する視点②（葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行） 5. こどもを理解する方法①（知能検査・発達検査・行動観察法、他） 6. こどもを理解する方法②（観察・記録・省察・評価） 7. こどもを理解する方法③（職員間の情報共有、保護者との情報共有） 8. こどもの自己理解を進める技法 こどもの自己表現と自己理解の発達 9. 幼児・こども理解とカウンセリング・マインド（実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める） 10. 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援 11. 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援 12. 相談支援の実際①（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち） 13. 相談支援の実際②（不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント） 14. 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援（幼・小の連携、親との連携） 15. 相談支援の課題と対応（教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成） | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「こどもの理解と相談支援」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| <p>「小学校学習指導要領」及び「小学校学習指導要領解説書」</p> | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる） 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 | | |
|---|--|------|-----------|---|--|
| En31520C ③ | 環 境 論 | 1 単位 | レポート・科目試験 | | |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く環境、保育環境、領域「環境」の内容とそれぞれの違いについて理解している。 2. 乳幼児期の子どもの発達と環境との関係がわかる。 3. 環境を通して行う保育の意味と、「保育はなぜ環境を通して行うのか」が説明できる。 4. 保育環境が満たすべき条件と、「計画的、意図的に環境を構成する」ことの大切さがわかる。 5. 子どもの年齢と発達に即した、ねらいが達成される環境をデザインすることができる。 | | | | | |
| ≪学習成果≫ | | | | | |
| <p>レポート：環境を通じた保育の意味を理解し、構成する環境が満たすべき条件、保育者のかかわりについて説明する。</p> <p>科目試験：保育環境と領域「環境」、領域「環境」のねらい、子どもにとって良い環境とは、人的環境、物的環境、自然環境、社会文化的な環境とは、保育情事の意義などについて説明する。</p> | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | |
| <p>子どもを取り巻く環境は様々であり、その中で子どもは生活をしている。保育環境の理解に基づき具体的な環境例を通して環境と子どもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味を学習し、幼児の主體的な活動を促すとともに発達に沿ったねらいが達成できるような意図的な保育環境をデザインする。</p> | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | | | | |
| <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもにとっての環境 <ol style="list-style-type: none"> ①環境の定義と子どもにとっての環境 ②環境を通して行う保育の意味 2. 保育環境と領域「環境」は何が違うのか <ol style="list-style-type: none"> ①保育環境と領域「環境」の違い ②領域「環境」の指導計画 3. 保育環境にはどのようなものがあるか <ol style="list-style-type: none"> ①人的環境・物的環境、自然環境、社会・文化環境 ②文字・標識・数量・図形 4. 幼児と身近な環境との出会い <ol style="list-style-type: none"> ①人的環境との関わり ②遊具、素材、自然環境との関わり </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 5. 子どもにとっての行事 <ol style="list-style-type: none"> ①行事の役割と意義 ②季節の行事と地域の行事 6. 地域・施設を理解しよう <ol style="list-style-type: none"> ①住んでいる街の探検 ②施設訪問 7. 環境を大切にしよう <ol style="list-style-type: none"> ①ひと、もの、命を大切に ②幼児ができる環境保護 8. 保育者としての専門性の向上 <ol style="list-style-type: none"> ①今求められる専門性 ② Society5.0 とこれから求められる専門性 </td> </tr> </table> | | | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもにとっての環境 <ol style="list-style-type: none"> ①環境の定義と子どもにとっての環境 ②環境を通して行う保育の意味 2. 保育環境と領域「環境」は何が違うのか <ol style="list-style-type: none"> ①保育環境と領域「環境」の違い ②領域「環境」の指導計画 3. 保育環境にはどのようなものがあるか <ol style="list-style-type: none"> ①人的環境・物的環境、自然環境、社会・文化環境 ②文字・標識・数量・図形 4. 幼児と身近な環境との出会い <ol style="list-style-type: none"> ①人的環境との関わり ②遊具、素材、自然環境との関わり | <ol style="list-style-type: none"> 5. 子どもにとっての行事 <ol style="list-style-type: none"> ①行事の役割と意義 ②季節の行事と地域の行事 6. 地域・施設を理解しよう <ol style="list-style-type: none"> ①住んでいる街の探検 ②施設訪問 7. 環境を大切にしよう <ol style="list-style-type: none"> ①ひと、もの、命を大切に ②幼児ができる環境保護 8. 保育者としての専門性の向上 <ol style="list-style-type: none"> ①今求められる専門性 ② Society5.0 とこれから求められる専門性 |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもにとっての環境 <ol style="list-style-type: none"> ①環境の定義と子どもにとっての環境 ②環境を通して行う保育の意味 2. 保育環境と領域「環境」は何が違うのか <ol style="list-style-type: none"> ①保育環境と領域「環境」の違い ②領域「環境」の指導計画 3. 保育環境にはどのようなものがあるか <ol style="list-style-type: none"> ①人的環境・物的環境、自然環境、社会・文化環境 ②文字・標識・数量・図形 4. 幼児と身近な環境との出会い <ol style="list-style-type: none"> ①人的環境との関わり ②遊具、素材、自然環境との関わり | <ol style="list-style-type: none"> 5. 子どもにとっての行事 <ol style="list-style-type: none"> ①行事の役割と意義 ②季節の行事と地域の行事 6. 地域・施設を理解しよう <ol style="list-style-type: none"> ①住んでいる街の探検 ②施設訪問 7. 環境を大切にしよう <ol style="list-style-type: none"> ①ひと、もの、命を大切に ②幼児ができる環境保護 8. 保育者としての専門性の向上 <ol style="list-style-type: none"> ①今求められる専門性 ② Society5.0 とこれから求められる専門性 | | | | |
| テキスト | | | | | |
| <p>「環境論」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> | | | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | | | |
| <p>「保育内容『環境』第3版」秋田喜代美編 (株)みらい (ISBN: 9784860154479)</p> <p>「幼稚園・保育所指導計画作成のためのねらいと内容集」田中敏明 (北大路書房) (ISBN: 9784762828546)</p> | | | | | |
| 学生に対する評価 | | | | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> | | | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-------------|-----|---------|
| In32042D ④ | こどもの指導法「健康」 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場で子どもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容について指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、子どもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。</p> <p>≪学習成果≫ スクーリング：乳幼児の健康づくりに関わる重要な要素について理解し、計画性を持って保育現場で応用ができるような知識・知力を養うことを目標とする。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら積極的な健康づくり指導を目指す。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）、保育の意義と児童観 <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」 2. 乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 <ul style="list-style-type: none"> ・発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本 3. 子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と虐待 4. 基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る 5. 子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解 6. 安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解 7. 健康と自然環境、園外保育の活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解 8. 保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ | | | |
| 時間外学習の時間の目安と内容 | | | |
| <p>【事前学習】時間の目安：1時間程度 内閣府のホームページ内より「子どもの健康」で検索し、食育および心の健康に関連のある内容につき目を通しておくこと（複数あるため1つでよい）。</p> <p>【事後学習】時間の目安：1時間程度 子どもの健康状態はいかにあるべきか、について目的（ゴール）と目標（目的までのプロセス）を考えておくこと。また、自身の健康づくりに留意すべく情報収集を心がけること。</p> | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 特になし | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-------------|-----|---------|
| In32062C ③ | こどもの指導法「環境」 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて保育を構想し、具体的な指導ができる。</p> | | | |
| ≪学習成果≫ | | | |
| <p>スクーリング：領域「環境」がわかり、領域環境に関わるねらいを達成するための幼児の発達や学びの過程をふまえた保育実践ができる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>5領域と領域「環境」、領域「環境」のねらいと内容、指導上の留意点。領域環境に係る幼児の発達や学びの過程の理解。保育実践の原則をふまえた具体的な保育の構想、教材や情報機器の効果的な活用。作成した指導案に基づく模擬保育と振り返り。小学校教育との接続。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育の基本と5領域および各領域の特色、ねらいと内容の理解。 2. 幼稚園教育における評価の考え方。領域「環境」のねらいと内容の構成。 3. 幼児期の特性や幼児の発達理解と、情報機器及び教材の活用。指導案の作成（幼児の姿、ねらい、内容、環境構成、幼児が経験する内容の展開、指導上の留意点）。 4. 小学校の教科等とのつながり。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム。 5. 模擬保育とその振り返り、保育を改善する視点。情報機器の活用と指導案の作成。 6. 保育構想の重要性と保育構想の向上。 7. 幼児が身に付けていく内容と指導上の留意点。保育の構想の重要性。 8. 領域「環境」に関わる保育の課題。小学校とのつながり。指導案の作成。 | | | |
| 時間外学習の時間の目安と内容 | | | |
| <p>【事前学習】 時間の目安：3時間程度</p> | | | |
| <p>幼稚園教育要領解説または、保育所保育指針解説の「ねらい及び内容」を読み、領域「環境」の目標、ねらい及び内容を理解する。</p> | | | |
| <p>【事後学習】 時間の目安：3時間程度</p> | | | |
| <p>作成した指導計画を見直し、幼児指導の原則がふまえられているか、ねらいや内容、環境構成や援助が適切であるか自己評価する。</p> | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |
| <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |
| <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| <p>配布資料（幼児の発達。発達の即したねらいと内容、幼児が経験してほしい内容。保育実践事例。）</p> | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | | |

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|---------------|-----|---------|
| In32110D ④ | こどもの指導法「言語表現」 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：乳幼児期の発達に応じた言語表現活動の指導法について述べることができる。言語表現活動をするための基本的な知識を身につけ実践することができる。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> こどもの言語表現指導法と指導案の作成 <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 言語表現の指導法及び指導案の作成 児童文化財による乳幼児の言語表現活動 <ul style="list-style-type: none"> 言語表現活動の意義と範囲 言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法 言語表現が豊かになる児童文化財の指導 <ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（1） <ul style="list-style-type: none"> 絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法 絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（2） <ul style="list-style-type: none"> 絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成 絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（3） <ul style="list-style-type: none"> わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材活用と留意点 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導（4） <ul style="list-style-type: none"> わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法 わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り 年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について | | | |
| 時間外学習の時間の目安と内容 | | | |
| <p>【事前学習】時間の目安：1時間程度</p> <p>絵本、紙芝居を図書館などで3点以上読んでおく。また、わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲームを本やインターネットなどで調べておく。</p> <p>【事後学習】時間の目安：1時間程度</p> <p>授業で学んだことを意識して児童文化財を用いて演じてみる。</p> | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保幼小連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |

参考書・参考資料等

『紙芝居－共感のよろこび』 まついのりこ（童心社）（ISBN：9784494022359）

『えほんのせかい こどものせかい』 松岡享子（文春文庫）（ISBN：9784167909468）

学生に対する評価

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
（評価はルーブリック評価を用いる）

| ナンバリング | 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-------------|-----|-------------------|
| Pr34361D ①②③ | 教育実習事前・事後指導 | 1単位 | 事前スクーリング・事後スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | | |
| <p>実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。 実習を終えて、再度、教師の役割と保育の意義を確認する。 実習での学び・成果を確認し、これからの課題や目標を明確にする。</p> | | | |
| 《学習成果》 | | | |
| <p>スクーリング：教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。 教師の役割や教育実習での学びを確認し、これからの課題や目標を明確にする。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、自分の課題や努力目標を明確にする。</p> | | | |
| 実務経験の概要 | | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と目的 <ul style="list-style-type: none"> ・教師の役割・幼稚園教育の基本と特質 ・実習の意義と目的 ・保育者としての倫理（守秘義務・職務に専念する義務等） 2. 教育実習の流れと手続き、その内容 <ul style="list-style-type: none"> ・実習生としての心構え ・手続きの方法の確認 ・事前相談・打ち合わせ 3. 観察・参加・責任実習 <ul style="list-style-type: none"> ・長期指導計画・短期指導計画 ・子どもを取り巻く環境（環境構成） ・幼児理解と保育 4. 教師の援助 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者理解と支援 ・特別な支援を要する子どもへの対応 5. 実践演習 <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び、読み聞かせ 6. 指導案作成（1） ・指導案とは何か 7. 指導案作成（2） ・指導案作成の実際 8. 実習の総括と評価、課題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解と学び ・保育者の活動からの学び ・これからの自分の課題と努力目標 | | | |
| 時間外学習の時間の目安と内容 | | | |
| <p>【事前学習】 時間の目安：2時間程度 ・教育実習の目標と、実習で実践したい活動や、読んでみたい絵本などを考えておく ・実習の手続きについて予習し、疑問点をまとめておく</p> <p>【事後学習】 時間の目安：1時間程度 ・実習の振り返りをまとめ、これからの自分の課題の克服と努力目標の実現に向けて努力する</p> | | | |
| テキスト | | | |
| <p>「教育実習事前・事後指導」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 特になし | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験の結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>※事前指導スクーリングでは（学習のまとめ）も含めて100点満点で評価し、60点以上で合格すれば、教育実習申込条件の一つ満たします。事後指導スクーリングにおいて、100点満点で評価し、成績評価を行います。</p> | | | |